

地域づくり活動 NPO 事業助成
もったいないをみんなで笑顔へ (フードシェアリング事業)

認定 NPO 法人宝塚 NPO センター

1. 事業が目指すところ（事業の目的・社会課題）

地域との繋がりを活かした食料支援を通じ、生活困窮者の自立を後押しするとともに、食品ロス等の社会課題を共有したい。 地域住民や企業と共に、困っている方を支え合う仕組みを構築し、将来にわたって持続可能な支援のネットワークを広げることを目指す。

2. 活動内容（以下の内容で食品回収と配布会 4 回を開催）

	食品回収		配布会（配布会場所：宝塚市立男女共同参画センターエル）			
	回収期間	回収量	開催日	参加人数	ボランティア 参加者数	
1	5/27～6/28	140.9kg	6/28	48名	相談件数 0件	市民ボランティア 17名 (若者ボランティア含む)
2	7/29～8/30	194.6kg	8/30	41名	相談件数 1件	市民ボランティア 15名 (若者ボランティア含む)
3	9/30～10/29	133.2kg	10/29	32名	うち相談件数 0件	市民ボランティア 17名 (若者ボランティア含む)
4	12/1～12/24	68.0kg	12/24	38名	うち相談件数 2件	市民ボランティア 13名 (若者ボランティア含む)

※助成期間 3 年間で繋がった企業・団体：12 社

※食品回収ボックス設置個所数：5 団体（当団体含む）

3. 成果と課題

《成果》

今年度は食品回収・配布を通じ、中間支援のハブ機能を確立した。
新たに回収ボックス設置箇所が 2 団体、協力企業も増加し、
多様な食品を配布会や子ども食堂へ届ける体制が強化された。
学生からシニアまで幅広いボランティアの方が多く参加し、
地域で困窮者を支える仕組みを周知する機会となった。
今後も企業や市民との繋がりを維持し、支援の輪をさらに広げていきたい。



《課題》

地域での新たな支援団体の立ち上げや、活動の普及が十分に進まなかつたことが最大の課題。配布方法について多くの意見を頂いたため、運用の改善が求められる。一方、食品提供を機に地域の方が子ども食堂へ参画する等の前向きな変化もあった。今後も働きかけを続け、担い手の発掘に注力したい。



4. 今後の展望

今後は地縁団体への周知を徹底し、地域が主体的に動く仕組みを広く浸透させていきたい。
また、早急に新たな担い手の発掘とノウハウ共有に注力し、企業連携による支援の輪を拡大。食料支援を通じ困窮者の自立を後押ししながら社会課題を共有し、持続可能な支え合いの構築を目指す。